

2013年マイワシ

単位：数量，1,000トン、価格，円/kg

| 年 | 数 | | | | | | | | 量 | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-----|------|-----|-----|-----|-------|-----|----|-----|-----------------|------|-------|
| | 生産地 | 輸 入 | | 輸 出 | | 東京 | | 在 庫 | 加 工 品 | | | | 生産 消費支出 生(%) | | |
| | | ミール | 生冷 | 生冷 | 缶 | 生 | 煮干 | | 缶 | 身入 | 塩蔵 | 煮干 | | 塩干 | |
| 24 | 136.4 | 97.8 | 252.0 | 4.0 | 23.1 | 0.0 | 5.1 | 2.2 | 14.0 | 4.2 | | 1.2 | 21.4 | 18.2 | 687.0 |
| 25 | 210.0 | 161.0 | 194.8 | 2.7 | 54.8 | 0.1 | 6.3 | 2.1 | 13.9 | | | | | | 737.0 |
| % | 154 | 165 | 77 | 68 | 237 | 825 | 123 | 93 | 99 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 107 |

| 年 | 産 地 | 価 格 | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|
| | | 輸 入 | | 輸 出 | | 東京 | | 消費支出 生(円) |
| | | ミール | 生冷 | 生冷 | 缶 | 生 | 煮干 | |
| 24 | 56 | 110 | 97 | 63 | 713 | 344 | 567 | 509 |
| 25 | 57 | 154 | 97 | 75 | 528 | 341 | 567 | 559 |
| % | 102 | 140 | 100 | 119 | 74 | 99 | 100 | 110 |

| 海域 | 24 | 25 | 対比(%) |
|-----|----|----|-------|
| 道東 | 6 | 9 | 148 |
| 三陸 | 6 | 15 | 251 |
| 常磐 | 55 | 67 | 122 |
| 九州 | 6 | 17 | 275 |
| 山陰 | 17 | 41 | 233 |
| その他 | 9 | 11 | 129 |

MAX：S63年 4488千トン

漁獲量と資源

25年のマイワシの漁獲量は、21万トンで前年の13.6万トンを上回った。

道東漁場では、昨年に続きマイワシの漁獲がみられ、前年(6,325トン)を更に上回る17,676トンの水揚げ(釧路、広尾)をみた。一方、カタクチイワシは皆無で前年(2087トン)を下回った。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は、三陸、常磐～房総海域での漁獲が何れも前年を上回った。また、山陰でも、前年の2倍増と好調な水揚となった。

太平洋系群のマイワシの資源量は、1980年代の1000万トン以上の高い水準から、1990年代に減少し、2002年以降2007年まで10万トン台の低い水準で推移したが、2008年以降の比較的良好な加入により、2012年は58.8万トンと増加した。同様に親魚量は2002年以降ごく低い水準で推移したが、2012年は37.3万トンとBlimit以上に増加した。現状の再生産関係では将来的に資源の現状維持～増加が見込まれる、とされている。

コホート解析の結果から、対馬暖流系群の資源量は1970年代から増加し、1988年には1000万トンに達したと推定される。その後減少し、1995年に資源量は100万トンを下回り、2001年には1万トンを下回ったと推定される。2004年以降は増加し、2005年より再び1万トンを超え、2012年の資源量は18.9万トンと推定された。資源水準は中位、動向は増加傾向にある、とされている。

産地水揚量と価格

25年の水揚量は、16.1万トンで前年(9.8万トン)を大幅に上回った。しかし価格は下がらず、57円で前年(56円)をやや上回った。

北部太平洋海域での漁は、三陸沿岸、常磐・犬吠海域とも好調な漁模様となり、前年をかなり上回った。なお、本年のミール相場も、高値基調は変わらず、前年来の20万円/トンが周年続いた。

三 陸

25年の三陸での漁況は、前年漁獲皆無であった初漁期（北上期）の4、5月に若干漁がみられ、夏場にも前年を上回る漁獲となり好調に推移した。

| 三陸(単位:1000トン) | | | 常磐(単位:1000トン) | | 山陰(単位:1000トン) | | 日本海北(単位:1000トン) | |
|---------------|-----|------|---------------|------|---------------|------|-----------------|-----|
| 月 | 24年 | 25年 | 24年 | 25年 | 24年 | 25年 | 24年 | 25年 |
| 1 | 1.4 | 1.3 | 0.4 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 2 | 0.3 | 0.2 | 2.8 | 4.3 | 0.3 | 4.6 | 0.0 | 1.6 |
| 3 | 0.0 | 0.0 | 9.9 | 11.0 | 0.5 | 8.2 | 0.0 | 1.4 |
| 4 | 0.0 | 0.0 | 3.8 | 13.2 | 10.7 | 9.1 | 0.0 | 0.2 |
| 5 | 0.0 | 2.1 | 11.3 | 18.3 | 2.9 | 1.9 | 0.0 | 0.0 |
| 6 | 0.1 | 7.0 | 2.7 | 14.9 | 1.0 | 2.1 | 0.0 | 0.0 |
| 7 | 2.4 | 2.4 | 14.7 | 2.8 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.0 |
| 8 | 0.9 | 0.5 | 8.1 | 0.2 | 0.1 | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| 9 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.5 | 0.4 | 0.0 | 0.0 |
| 10 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 8.3 | 0.0 | 0.0 |
| 11 | 0.0 | 0.1 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 4.9 | 0.0 | 0.0 |
| 12 | 0.9 | 1.6 | 0.5 | 1.7 | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 0.0 |
| 計 | 6.1 | 15.3 | 55.2 | 67.1 | 17.4 | 40.7 | 0.1 | 3.2 |

MAX: S61年1097千トン MAX: S58年822千トン MAX: H元年713千トン MAX: -

秋から冬場の南下期も昨年を上回る漁獲となった。

魚体は、周年を通じて2012年級群主体に漁獲された。

常 磐

25年の常磐での漁況は、原発による放射性物質漏れの影響もあって、福島沖での操業区域の制限が本年も続いた。初漁期の越冬群の漁獲が前年を上回り、北上期においても前年を上回った。また、後半の南下期も前年をやや上回る漁獲であった。その結果、前年をかなり上回る結果に終わった。

魚体は、周年を通じて2012年級群主体に漁獲され、越冬、北上期は小中羽・中羽主体、南下期は中羽主体に漁獲された。

山 陰

25年の山陰での漁況は、今年は3、4月にまとまった漁獲があったことと、その後秋終盤にもまとまった漁獲がみられ、全漁期を通じて好調であった。その結果、水揚量は昨年を大幅に上回った。

また本年のカタクチイワシは、下半期3、4月に山がみられたが、下半期の漁がまとまらず、低調に推移し、水揚げも前年をかなり下回った。

在 庫 量

本年の月平均在庫量は、1.4万トンとなり前年(1.4万トン)並みであった。これは、国内生産の増加を輸入量の減少、輸出の大幅増加により打ち消した結果である。越年在庫も0.9万トンと下半期の水揚げの停滞で前年(1.2万トン)をやや下回った。

輸 出 入

本年の輸入ミールは、19.5万トンで前年（25.3万トン）をかなり下回った。

輸入ミールは21世紀に入って再度増加傾向を見せてきた。2001、2002年は40万トン台に輸入量も回復しつつあり、2006年も2002年以来の40万トン突破となったが、2007年以降市況の高騰やペルー沖のアンチョビーの不振もあって30万トン台前半の水準で推移し、本年も前年を更に下回り、ついに20万トンを割る昭和年代末期の低水準となった。

また、平成7年頃から餌料不足により従来から外国（米国、メキシコ、オランダ）からの原魚輸入もみられていたが、現在では米国、メキシコの2国が主体である。本年は国内生産増加の影響もあってかなり減少しており、輸入冷マイワシは夫々1,415トン、103トンと引続きやや減少傾向がみられる。また、その他少ないながらもインド（840トン）、中国（200トン）を始めアジア諸国、EU等からも輸入されている。本年は0.3万トンで前年（0.4万トン）を下回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っており、本年も66トンで前年（8トン）より増加したものの低水準であった。

また、冷凍輸出は引続き国内漁獲が増加基調であることを反映し5.5万トンと前年（2.3万トン）を大幅に上回った。

価格は、缶詰が528円で前年（713円）をかなり下回り、冷凍は75円で前年（63円）を上回った。

消費地入荷量と価格

本年の東京の入荷量も、6.3千トンで引続き前年（5.1千トン）を上回った。

マイワシは近年の資源量の低水準の中でも最低の時期を脱しており産地水揚げの増加もあり、消費地への入荷は増加した。

価格は、341円で引続き前年（344円）並みであった。家計消費でみると今年は数量、購入金額とも増加が目立ち、消費需要は伸びた。煮干しは、2.1千トンで前年（2.2千トン）をやや下回り、再度減少に転じた。